

「主体的で対話的で深い学び」を 実践する保育者の研修



一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 **安家 周一**

1) 研修俯瞰図・研修ハンドブックと教員免許更新制度

平成18(2006)年、全日私幼連・全日私幼研究機構の教育研究委員会の議論を経て「保育者としての資質向上研修俯瞰図」が完成しました。その後、平成20(2008)年には研修俯瞰図に基づく研修ハンドブックを刊行し、教職員が主体的に学ぶための研修の全体像を示しました。全国で実施している研修を体系化したことで、全都道府県における研修が整理されました。幼児教育としての研修内容が整理されたことは、教員免許状更新講習においても、法令の理解にとどまらず、より現場の必要感に寄りそう講習の実施へとつながりました。処遇改善等加算Ⅱの仕組み構築にあたっては、認定こども園や幼稚園のキャリアアップ研修が時間積み上げ方式で認定されることの根拠ともなりました。

同時に研修ハンドブックへ受講スタンプとして記録する仕組みは、研修履歴の蓄積が見える化したものとして着目されました。時代の変化にあわせてアナログからデジタルへと移行が進み、既に「幼稚園ナビ」ではデジタル管理システムとして整備が進んでいます。教員免許更新制度は発展的に解消され、教育公務員においては受講した研修を蓄積し見える化をすることとしていますが、私たちはすでに「幼稚園ナビ」を通して研修の受講履歴保管システムを構築しています。

2) 小学校は到達目標、幼児教育は方向目標

このようにして、当機構ではいち早く幼児教育という特性に合わせた研修の体系化を図ってきたことで、教員免許状更新講習を支援してきました。新しい幼稚園教育要領では、何かを教える到達目標ではなく、子どもの育ちを見取り、育ちの方向性を求める環境の構成に基づく保育計画や実践が多く語られ、昭和の時代と180度変化してきましたが、私たちにとって、教育免許状更新講習は、幼児教育の基本が学べる良い機会であったと思います。その結果は、受講者のアンケートにおいて、研修

の有効性・有用性が多く寄せられたことから分かります。研修に出向く機会の少なかった非常勤やパートの先生方にも好評でした。免許更新という義務的な要素ではありましたが、これを受講することによって、すべての教員が再度学ぶ機会が得られたことは、幼児教育の質向上の上でも大きな貢献になったと考えます。

3) これからの教員研修における大きな課題

幼児教育の無償化が始まり莫大な公金が幼児教育に注がれるようになった現在、保育や教育の質が評価される時代を迎えます。この課題への対応が当機構の大きな課題です。

文部科学省では「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標」を策定し、以下の基本的な考え方を上げています。

- 研修履歴を活用した資質向上に関する指導助言
- 多様な内容による資質向上
- 「現場の経験」を重視した学び
- 対面、集合型、同時双方向型オンライン、オンデマンド研修
- 研修成果の確認など

このような新時代を迎え、小学校就学前の教育の研修と評価を扱う当機構では、2022年度研究委託(文部科学省)を受託し、研修俯瞰図の拡充に加え、幼稚園ナビを高度化すべく幼児教育研修システム「ゆたかなまナビ」と改称し、オンデマンドによる研修ライブラリーの構築、システムの強化やサーバーの拡充、確実な研修の受講履歴の保管を追求しています。

やるべき課題は山積していますが、教職員が主体的で対話的な深い学びの実践者となるように設置者・園長の皆さんと共に諸課題を乗り越えていきたいと思いません。



ここがポイント

絵本を一緒に楽しもう



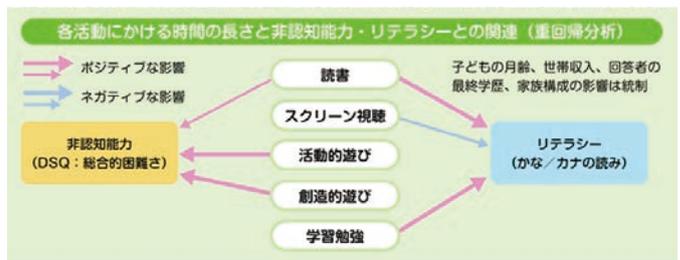
学習院大学文学部教育学科 教授／秋田喜代美

みなさんには、お気に入りの絵本、わすれられない絵本があるでしょうか。それはどんな絵本でしょうか。子どもの時に読んでもらって好きになった絵本もあれば、保育中に読んで子どもたちが喜び、好きになった絵本もあるのではないのでしょうか。絵本は、子どもたちにとっての、「心のミルク」とも呼ばれたりします。食物がいろいろな栄養をとることでバランスよく育つように、絵本もまた多様な絵本との出会いが心をバランスよく健やかに育つことを保障してくれます。

ブックスタートをはじめ、乳児検診の時に保健所やお医者さんから絵本が自治体としてプレゼントされる活動は2000年の子ども読書年をきっかけに始まり現在では、全国の81.3%の自治体で実施されています。それによって、0-1歳前後から絵本と出会う場合が多くなっています。乳児期の絵本の経験は、親子の情動的絆を形成します。また日常生活の中での親子のやりとりの会話よりも、絵本の中では数多くの語彙が使われており、より複雑な文も含まれていたりするので、絵本を楽しみながら知らず知らずのうちに語彙の獲得等にも影響することが国内外の調査研究からも明らかにされてきています。この楽しみに集中し、没頭することで様々な知識も結果として身につくのが絵本の世界です。絵本を開き、共同注意といって同じ絵を同時に一緒に見ることで一体感が生まれます。そして日常の現実世界とは違うお話の世界について語り合う喜びは、子どもにとって想像の世界を拓き、園や保護者の方にとっても忙しい日々の中でほっと一息つく時間とも、心理的にはなるのではないかと思います。筆者らが以前に行った観察研究では、はじめは親などが指差しをしています但那うち1歳後半から2歳ころには子どもも一生懸命指をさして気づきを示したりするように次第に発達していきます。

では幼児期にはどうでしょうか。2020年コロナの中で筆者もメンバーになって行った東京大学Cedep×ポプラ社による全国のご家庭へのWEB調査でみてきたのは、過半数の幼児は、一日の読書時間が平均10分以下という結果でした。また電子書籍を利用している幼児は1割未満で、保護者の「子どもが読む絵本・本は紙が良い」という意識が強いことも見えてきています。またベネッセ教育総合研究所で実施している様々な幼児期の親向け調査でもわかってきているのは、幼児期には3、4、5歳と加齢に伴ってご家庭での子どもの絵本経験が少なくなってきたということです。小学校1年生で1か月に1冊も本を読まないという不読率が15%を超えていることもわかっています。園で読んでもらって

るから、大丈夫と考えたり、文字が読めるようになったから一人で子どもに任せておけばよいと考える方もおられるようです。しかし、ご家庭で絵本を読むことは園で読む、一人で読むのでは得られない経験があります。園で皆と読み聞かせを聴く経験もとても貴重ですが、ご家庭では自分で選んだ、自分だけの好きな絵本を自分の好きな親に自分のペースでゆったり読んでもらえることの楽しさや親子だからこそ家庭の生活経験を基にして語り合えるという経験にもなります。一人でみているだけでは絵本の深い理解にはなかなかいたらないのです。下の図をご覧ください。



(出典:「調査結果ダイジェスト令和の子どもと絵本・本環境」Cedep×ポプラ社の共同研究プロジェクト
http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/projects_ongoing/research/poplar/)

これは幼児が様々な活動を1日の中でご家庭でどれぐらい行っているのか、それが子どもの発達にどのような大きさの影響を及ぼしているかを調べた結果です。読書と書かれている、絵本を読むといった活動だけが、認知としてのリテラシーや、非認知能力ともいわれる困難なこともやりとげるような力の両方と関係していることがわかっています。その意味で絵本の読み聞かせはとても貴重な経験なのです。筆者らが幼児期から中学3年生まで現在長期縦断研究として行っている研究においても、幼児期の読み聞かせは小学校4年生や小学校6年生での言語スキル能力にも影響を及ぼす重要な要因になっていることもわかっています。ぜひ、園でも毎日10分-20分、子どもたちと共に多様なジャンルの絵本で楽しい時間をすごしてみてください。それによって子どもたちが自分で選ぶ本の種類や読み方の違いも生まれるかもしれません。またクラスだより等で絵本を紹介したり、地域図書館からの団体貸出などもうまく利用したり、絵本のリサイクルなども行ってみてもよいかもしれません。絵本から遊びへ、遊びから絵本へという往還も楽しいですね。教科書のある小学校と違って、幼児にとって絵本は大事な学習教材であり、生涯の宝物にもなります。

「ここでは地震は起こらない」は幻想

名寄市立大学 特命教授／猪熊 弘子

気象庁の観測データによれば、全国で震度5弱以上の揺れを感じた地震が今年に入ってからだけで、すでに10回も起きています。緊急地震速報の警報音に驚いて深夜に飛び起きた経験がある人も多いことでしょう。日本に住んでいる以上、私たちは常に地震の危険と隣り合わせです。

1995年1月17日、阪神・淡路大震災が起きた時、私は兵庫県西宮市に住んでいて被災しました。住居に被害はなく、その日のうちに電気も復旧しましたが、水道と都市ガスが1か月止まりました。当時はまだ子どもいませんでしたし、周囲の被害があまりにも大きかったことから、その程度では被災とも言えないと思っていました。2011年3月11日、東日本大震災の時は東京に住んでいましたが、震度5強の揺れで電車が止まり、職場から自宅まで13.5kmの道のりを3時間半かけて歩いて年長組だった双子の息子たちを保育園に迎えに行ったことは、忘れられない記憶です。東北の方たちが受けた被害の大きさは到底比べものになりませんが、首都圏の人間が初めて体験した昼間の大きな地震でした。

阪神・淡路大震災に遭う前、「東京から来た」というと、友人たちからよく「ここは地震がない地域だから良かったね」と言われたものでした。私はそれを信じていたのですが、大震災の後、「地震がない地域」どころか、街は活断層の上にあったことがわかりました。日本にはまだ知られていない活断層もたくさんあると言われていま。日本に住んでいる以上、「ここでは地震は起こらない」と油断することはできません。

とにかく、対策が必要です。まずはハード面から考えてみましょう。阪神・淡路大震災の経験から言えば、大地震では最初の30秒～1分を持ちこたえることが最も重要です。建物さえ壊れなければ、命を守ることができるのです。園舎の耐震診断を行い、必要なら補強工事を行いましょう。次に園舎内の危険対策です。阪神・淡路大震災ではピアノが動いたり転倒したりした事例を数多く聞きました。アップライトピアノなら耐震用のキャスターの受け皿や転倒防止用のストッパー、グランドピアノなら脚折れ防止の補助脚などを使用しましょう。また、蛍光灯やガラスには飛散防止対策を施しましょう。

震災で寸断されたライフラインは、電気・水道・ガスの順に復旧します。電気はすぐに復旧しますが電力不足から計画停電が起きる可能性もありますので、発電機があると安心です。また、阪神・淡路大震災の経験から言えば、水は飲み水だけでなく水洗トイレにも必要です。

水洗トイレは水がないと全く使えず、不衛生になってしまいます。「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」(2022年4月内閣府)が参考になるのでぜひ読んでおきましょう^(注1)。緊急時のトイレ用に雨水を大量に貯めておく装置があるとなお良いでしょう。

次に人の動きなどのソフト面の対策です。園児がいる日中に地震が起きることを想定し、チャートを作ってシミュレーションをしておくと思いいます。避難については、まずは地域の一次避難場所、二次避難場所を職員で確認した上で、安全に園児を誘導する経路と方法を考えましょう。安全管理の第一歩は子どもの顔と名前を一致させることと、場面が変わるたびに頻繁に行う人数確認です。緊急時に名簿が持ち出せない可能性もあり、そのときには先生の記憶だけが頼りになります。

避難場所にはさまざまな人が集まります。子どもに対して悪意のない人ばかりではないはず。また、大勢の園児を避難場所に連れて行く途中にも、取り残しや交通事故等のリスクがあります。場所にもよりますが、園舎内にとどまる方が安全な場合も多いでしょう。耐震対策をしっかり行い、十分な備蓄があれば、園は子どもにとってベストな避難場所になるはず。保護者に対しては、震災後の状況を逐一正確に発信していきましょう。SNSを含めたデジタルツールはもちろん、時には張り紙などのアナログな手段も有効です。両方の手段を使って保護者に状況を伝えていきましょう。園の外に対する発信も重要になります。園の発信力の大きさが、その後の支援の大きさに比例するからです。より多く発信している園に、助けが集まりますから、平常時からSNS等を使って発信しておくことです。

私の亡き祖父はちょうど100年前の1923年に起きた関東大震災を経験しており、子どもの頃、何度も震災の話を聞かされたものでした。揺れで立って歩けなかったこと、言うようにして家の裏の竹藪に逃げたこと、風呂桶の水が揺れであふれて流れてしまっていたことなど、祖父の話はイメージとしてずっと記憶に残っていました。そのため、阪神・淡路大震災に遭った時にはすぐその祖父の話を思い出し、役に立ったこともたくさんありました。園児に普段から震災の話をしておくことも、一つの対策となるのかもしれない。

参考文献

注1：内閣府「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」2016年4月(2022年4月改定)
https://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/pdf/2204hinanjo_toilet_guideline.pdf

これからの幼児教育に対応した研修俯瞰図の改訂

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 副理事長／宮下友美恵

●「保育者としての資質向上研修俯瞰図」と「研修ハンドブック」

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構（以下、当機構）は、幼児期における子どもの豊かな育ちについて研究を深めるとともに、幼児教育にかかわる者を支援し、幼児教育の発展並びに家庭・地域における教育力の向上に寄与することを目的として事業を展開しています。その事業の成果として外部からも高い評価をいただいているものの一つに「保育者としての資質向上研修俯瞰図（以下、研修俯瞰図という）」があります。当機構では平成18年に研修俯瞰図を開発し、当機構や各都道府県の私立幼稚園団体が主催する研修会の内容を整理・体系化してきました。併せて、私立幼稚園等の保育者が研修俯瞰図に沿った研修会を受講した際に、その履歴を個人単位で管理することを目的として、平成20年に「研修ハンドブック」を発刊し、改訂を重ねながら現在に至っています。

●現状に即した研修俯瞰図・研修ハンドブックの改訂

現在、当機構や各都道府県の私立幼稚園団体では、研修俯瞰図を拠り所としながら研修会を企画、実施していますが、最新の幼児教育の課題に対応した研修俯瞰図の改訂が必要になってきました。そこで、今年度は文部科学省委託事業として、研修俯瞰図及び研修ハンドブックの改訂に取り組んでいます。今回の改訂は、特に次の5つの点に留意しながら実施してまいります。

- ①「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿実現に向け、教員免許更新制の発展的解消後、保育者等が必要な研修を主体的に選択して受講できるようにするための内容の整理
- ②令和5年度から段階的に処遇改善等加算Ⅱの研修修了要件が必須化されることへの対応（マネジメント分野を含む各分野との関連性を分かりやすく示すための工夫）
- ③看護師や保健師・調理師・栄養士等を考慮した、健康・

安全・食育・衛生等の多様な研修への対応

- ④私立の幼稚園教諭・保育教諭としての資質・能力の育成と研修俯瞰図のhop・step・jumpとの関連性の整理
- ⑤現場の保育者にとって身近な表記であるとともに、行政や一般の人に対しても分かりやすい表記とするための工夫

今回の改訂については、当機構のワーキングチームに加えて、外部の有識者として神長美津子先生（大阪総合保育大学特任教授）、野澤祥子先生（東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター准教授）、箕輪潤子先生（武蔵野大学教授）からもご意見をいただいで進めてまいります。

また、平成18年から長い間、研修俯瞰図を活用して研修を企画してくださっている各都道府県私立幼稚園団体の研修担当者の皆様のご意見も、反映させていきたいと思っています。

幼児教育は小学校以降の教科教育とは違い、遊びを通じた総合的な指導が求められることから、一つの研修会の内容も様々な分野が絡み合っていることが多いといえます。そこで、そのような幼児教育の特性を大切にしながら、保育者が研修で学ぶ内容と研修を受けることによって育つ資質能力の両面を、考えていくことが必要だと思えます。

以前は、私立幼稚園の教職員が短いサイクルで退職する傾向にありましたが、現在では幼児教育の仕事を一生涯の仕事として捉え、保育者としてのキャリアを積み重ねていく人が増えていることは大変喜ばしいことです。保育者が幼児教育の専門家として、また一人の人として成長していくために、この研修俯瞰図を十分に活用し、自信と誇りをもって子どもたちと共に豊かな生活を創り出していただくことを願い、研修俯瞰図と研修ハンドブックの改訂に取り組んでいきたいと考えています。

私たちは幼児教育用品を通じ、幼児教育の質の向上に貢献します。

Gakken

ひかりのくに

フレーベル館

世界文化ワンダー販売

JAKUETS

Child
チャイルド本社

処遇改善等加算Ⅱ 研修修了要件の改正について

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 専務理事／加藤 篤彦

「施設型給付費等に係る処遇改善等加算Ⅱに係る研修修了要件」が改正され令和3（2021）年9月に通知されました。今後、研修修了要件が段階的に適用され、その第一段階として令和5年度は15時間以上の研修の修了を市区町村に申請し、確認を受けることになります。

処遇改善等加算Ⅱは当初から市区町村行政の解釈にも混乱が見受けられますので、改めて説明します。

●「保育士等キャリアアップ研修」と「幼稚園・認定こども園キャリアアップ研修」

下図^(注1)をご覧ください。二重線で左右を分けました。研修は施設により「保育士等キャリアアップ研修」と「幼稚園・認定こども園キャリアアップ研修」のふたつに大別されます。「キャリアアップ研修」という名称は同じですが、研修の考え方や組み立て方等は大きく異なります。認定こども園に勤務している保育者は、乳児の担当であっても幼稚園・認定こども園の研修受講で加算認定が得られます。しかし、市区町村行政はもともと保育所を担ってきたことから、厚生労働省の通知を優先して、保育士等キャリアアップを推奨する例がありますのでご注意ください。（既に保育士等キャリアアップを受講されている方は、修了すれば処遇改善等加算Ⅱの時間数要件を満たしますのでご安心ください。）

保育所では1分野15時間の研修が1セットです。最終的に4分野（計60時間）の研修を修了し証明を得ることで加算認定が行われます。

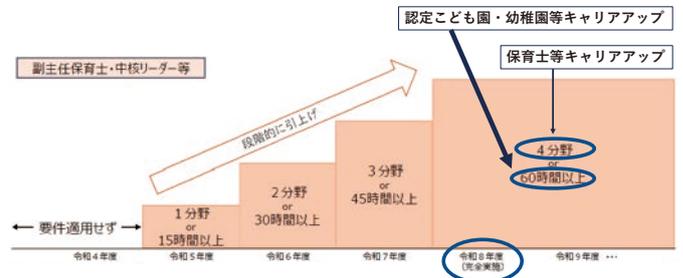
幼稚園・認定こども園では、分野は問われません。研修総時間数として60時間分の研修を修了し証明を得ることで、加算認定が行われます。ただし令和8（2026）年度からは、60時間の中にマネジメント研修^(注2)15時

間分を含んでいるかの確認がなされます。

●「幼稚園・認定こども園キャリアアップ研修」と「研修俯瞰図・研修ハンドブック」

当機構が推進してきた幼児教育の研修の体系化をはかった「研修俯瞰図」と、研修の履歴を蓄積して可視化する「研修ハンドブック」に基づいて、各都道府県でも数多くの研修が実施されてきました。この実績が国に認められ、今まで私たちが研修してきたことが、「幼稚園・認定こども園キャリアアップ研修」となったのです。教師は主体的に学び続ける存在として、永年、各私立幼稚園が積み重ねてきた研修の文化が処遇改善等加算Ⅱとして活かされたのです。新たに作られた「保育士等キャリアアップ研修」と大きく違うところです。研修の受講証明は、各自が研修ハンドブックに蓄積したシールによって行われます。（園から市区町村への標準的な申請様式は、本年度内には三府省から示される予定）

下図は、研修要件の段階的な実施を示したものです。右側に○で囲みましたが、「分野」で示しているのは「保育士等キャリアアップ」についての要件であり、認定こども園・幼稚園には関係がありません。orの下の部分の研修総時間数が要件となります。



処遇改善等加算Ⅱの賃金改善対象者に係る研修修了要件について			
	保育所等	幼稚園	認定こども園
研修要件	副主任保育士、中核リーダー、専門リーダー ※副主任保育士についてはマネジメント分野の研修を含むことが必要	計60時間以上の研修の修了 ※中核リーダーは15時間以上のマネジメント分野の研修を含むことが必要	計60時間以上の研修の修了 ※中核リーダーは15時間以上のマネジメント分野の研修を含むことが必要
	職務分野別リーダー、若手リーダー ※担当する1分野の研修の修了	計15時間以上の研修の修了 ※担当する職務分野に対応する研修を含むことが必要	計15時間以上の研修の修了 ※担当する職務分野に対応する研修を含むことが必要

「施設型給付費等に係る処遇改善等加算Ⅱに係る研修修了要件について（通知）」改正概要 より 令和3（2021）年9月

引用文献等

- 注1：掲載資料は、内閣府HP>内閣府の政策>子ども・子育て本部>子ども・子育て支援新制度>『子育て支援事業者の方向け情報』から引用。筆者が説明箇所を強調するために加算。
注2：マネジメント分野に係る研修とは、カリキュラム・マネジメント、組織マネジメント、他機関との連携、リーダーシップ、人材育成・研修、働きやすい環境作りなど。園の円滑な運営、教育・保育の質を高めるために必要なマネジメント及びリーダーシップの能力を身につけるために必要な研修が幅広く認められている。

私達は衝撃緩和帽の開発を通じて大切な子供達の未来を守ってゆきます！

ゴツン!! から、
まもってあげたい。

子どもの頭を守る帽子

この帽子痛くない！

企画・開発 **株式会社リード**

〒028-6104
岩手県二戸市米沢字家ノ上39-1
<http://hot-anshin.com//index.php>

お問い合わせはこちら

安心帽販売

TEL 090-8644-5654
FAX 042-563-8907

幼児教育研修システム「ゆたかなまナビ」が スタートしました。

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 理事／安達 譲

制度は時代の変化と共に移り変わっていきますが、一人一人の子どもがその子らしく健やかに乳幼児期を過ごし、幸せな人生を歩んでほしいという私たちの願いや、そのために、もっといい保育がしたいという先生方の想いは変わりません。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大により一昨年からこれまでのような対面の研修に参加することが難しくなり、自分たちの保育を向上させるための研修の受講が難しくなりました。しかし一方ではコロナ禍があったからこそ、各地区では動画の配信やZoom等の様々なICTツールを活用した研修に取り組まれています。

そのような現状に対応して、当機構では令和4年3月よりオンデマンド研修の提供をスタートさせ、そのオンデマンド研修システムと現行の幼稚園ナビに付加されている研修に関する機能（研修申込、スタンプの発行等）を合わせて幼児教育研修システム「ゆたかなまナビ」という名称に変更することとして、各種開発等をすすめています。この取り組みはコロナ禍にあっても各園の先生方が学び続けられる環境を用意し、各園での豊かな保育実践を支えることを目指しています。6月からは、全国の各地区からプロジェクトメンバーの方々に参加していただき、全国の各地区、各都道府県で実施されている研修の中から現場の学びに資する講演や実技研修、現場からの実践を収集し、お届けすべく検討を重ねております。最終的には数年後に研修俯瞰図に対応したライブラリーのように、いつでもだれでも学ぶことができる環境を目指しています。

また、教員免許更新制が発展的解消となり、今後はキャリアアップのために各自が計画的に受講し、受講履歴を蓄積していくこと、その履歴を証明することが必要となります。当機構では今年度、文部科学省委託事業「幼児教育における人材確保・キャリアアップ支援事業（人材

確保関係事業）」を受託し、「幼稚園ナビ」の機能向上に取り組んでいます。既に多くの先生方にご利用いただいておりますが、幼稚園ナビを通じて研修を申し込むことで研修の受講履歴を蓄積し、キャリアアップ研修にも対応できるようにしていますので、各園、各先生方は幼稚園ナビよりエントリーいただき、研修スタンプの発行手続きをお願いいたします。今後さらに全国の多くの方々の受講申し込みを受け付けていきたいので、先生方はスタンプ発行等にかかる費用のお支払いに対応するため個人のクレジットカードのご準備もお願いいたします。

尚、全国の加盟園の法人が運営する保育所や小規模保育事業所で働かれている方々にもご利用いただけるマネジメント研修、キャリアアップ研修等も今後案内してまいりますので、ぜひご参加下さい。

令和4年度 常時開設動画研修コンテンツ（第一期）

☆ 研修スタンプも随時発行しております ☆

【講習名／企画または講師】

1. 学校評価（自己評価および学校関係者評価）
企画：平林 祥（ひかり幼稚園主事）
2. 子どもの思いをつなぐ遊びの環境を考える
講師：岡部祐輝（高槻双葉幼稚園教頭）
3. 園と保護者と保育者と≡預けるということ
講師：安家周一（学校法人あけぼの学園理事長）
4. 公開保育加算の説明動画
企画：平林 祥（ひかり幼稚園主事）

【動画配信、受講申請、受講確認期間】

令和4年4月28日（木）10:00

～ 令和5年4月3日（月）11:00

【申込方法】

幼稚園ナビより、申込を随時受付中でございます。
ご不明な点等ございましたら当機構までご連絡下さい。



こどもの笑顔に勝る制服はない。

株式会社 矢部スロカッターズ

URL: <http://www.seagull-yabe.co.jp> E-MAIL: yabepro@seagull-yabe.co.jp

本社	〒241-0821	横浜市旭区二俣川 2-85-2	TEL 045-363-6871	FAX 045-361-3085
東京支店	〒179-0084	東京都練馬区水川台 3-21-14		TEL 03-6281-0025
千葉支店	〒276-0026	千葉県八千代市下市場 1-13-8		TEL 047-481-7723
埼玉支店	〒330-0604	埼玉県さいたま市大宮区桜の内町 2-1-1		TEL 048-640-3003
仙台支店	〒981-3131	宮城県仙台市泉区泉中央 1-47-1 アコーズ泉中央 103		TEL 022-218-3217
大阪支店	〒653-8104	兵庫県西宮市天瀬町 25-15 KIマンション 1F		TEL 079-969-6510
札幌営業所	〒007-0834	札幌市東区北 34 条東 14 丁目 3-1 マンション東堂 1F		TEL 011-712-8088
福岡営業所	〒811-0214	福岡県福岡市東区和白菜 2-14-28 エクセル和白 103		TEL 092-606-5080
名古屋営業所	〒464-0083	愛知県名古屋市中区北千種 2-3-18 1F		TEL 052-778-7272
広島営業所	〒721-0955	広島県福山市新藤町 3-27-8		TEL 084-953-8818
仙台工場	〒981-0504	宮城県東松島市小松字隠田 110		TEL 0225-82-8111
稚内工場	〒097-0001	北海道稚内市末広 5-35-1		TEL 0162-32-8111
物流センター	〒981-0504	宮城県東松島市小松字隠田 108		TEL 0225-82-8154
第二物流センター	〒721-0955	広島県福山市新藤町 3-27-8		TEL 084-953-8818



機構の活動報告・お知らせ

令和4年度全国研究研修担当者会議オンラインで開催

令和4年6月28日、ベルサール神保町において当機構の令和4年度全国研究研修担当者会議がリアルタイムのオンラインで開催されました。全国の研究研修担当者88名の方が参加し、報告やグループワークが行われました。

まず初めに安家周一理事長より開会のあいさつが行われた後、岡本和貴研究研修委員長より趣旨説明が行われました。

そして、本会議のテーマである「幼児教育の質を高めるための機構の役割」について各事業の担当者等より報告されました。

〔報告①〕

- ・「機構のこれからについて」
安家周一理事長

〔報告②〕

- ・「日本の幼児教育の未来と機構に求める役割について」
文部科学省初等中等教育局幼児教育課長：大杉住子氏

〔報告③「機構の各事業の現状について」〕

- ・「本部機能の現状について」
加藤篤彦専務理事
- ・「令和4、5年度教育研究課題について」
岡本和貴研究研修委員長

- ・「家庭教育力の向上のために一こどもがまんなかしんぶんの活用について」
高尾恵子調査広報委員長
- ・「保育環境研究部会の今までの取組とこれからのについて」
平林祥保育環境研究部会長
- ・「ECEQ®のこれからについて」
岡本潤子ECEQ®専門部会長

この後、各都道府県での研修等の取組をグループワークで共有し、これからの研究研修の在り方を討議しました。オンラインでの会議でありながら、参加者同士が活発に意見交換を行いました。

最後に、宮下友美恵副理事長より閉会のあいさつが行われ、終了しました。

なお、参加者の意見感想を直接聞くことができないことから本会議終了後に、Zoomの機能「チャット」を利用し感想やグループワークで抽出した話題・各地区の課題などを、当機構にも共有していただくことができました。

さらに、本会議の動画を後日各都道府県の教育研究に携わる方等にオンデマンド配信を行いました。

研究研修委員会

賛助会員（園児の保護者等）入会申込書について

当機構の賛助会費の御礼として配布している「こどもがまんなかしんぶん」は今年度よりデジタル版を含め年11回発行しています。「こどもがまんなかしんぶん」は園とご家庭を結ぶコミュニケーションの一助となることを目指して配布しています。

賛助会員の入会につきましては随時募集を行っております。詳しくは当機構のHP (<https://youchien.com/publication/pta/>) よりご覧ください。

調査広報委員会

 snapsnap スナップスナップ

お問い合わせ
ご相談はこちら



自然な表情を撮影して
新たな価値提供を

園でのお子さまの日常を保護者さまに写真でお届け！「スナップスナップ」はカメラマンや先生の撮影をサポートします

自動撮影カメラ
貸出無料



株式会社ラボネットワーク

Tel : 050-3116-6305 (平日 10:00~17:00)

スナップスナップ導入についてはこちらから : <https://school.snapsnap.jp>